【データ算歩：沖縄タイムス紙 2014 年 9 月掲載分】

紅茶の平均価格
（2013年・1袋当たり）

順位	県庁所在地	価格（円）
1位	長崎市	57
2位	那覇市	55
3位	宮崎市	50
4位	水戸市	48
4位	前橋市	48
4位	高知市	48
7位	静岡市	47
7位	徳島市	47

55円

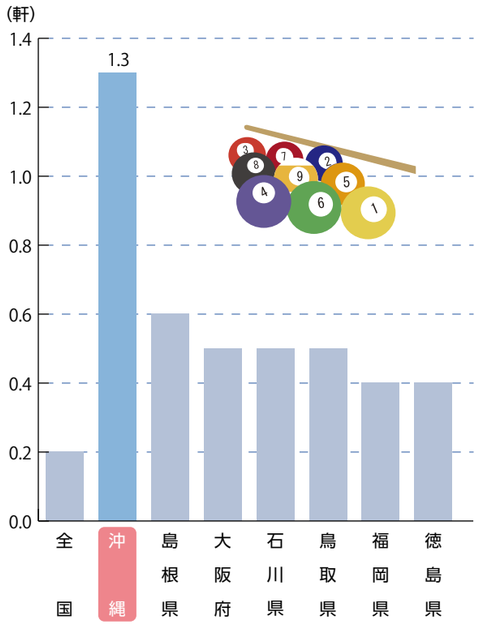
沖縄の食堂でよく飲まれているティー（紅茶）。スーパーやコンビニエンスストアでも沖縄限定の紙パック紅茶が販売されていたり、自動販売機でも紅茶関連の商品は必ずと言っていいくらい目にする県民になじみの飲み物だ。

総務省「小売物価統計調査」によると、那覇市における紅茶（ティーバッグ1袋あたり）の平均価格は55円。全国の県庁所在地の中では2番目に高い。県外からの運送にかかる費用が高価格の要因のひとつと考えられる。

一方で、那覇市の家計における紅茶の消費額は、2008年から2013年の5年間で163円増加したものの、全国では27位。家庭での消費はさほど多いわけではない。

最近では沖縄県産の紅茶がホテルで提供されるなど、県産紅茶を活用した商品もみられるようになった。県産紅茶で優雅にティータイムを楽しんでみてはいかが。（海邦総研・堀家盛司）

ビリヤード場数
（2009年・10万人当たり）



1.3軒

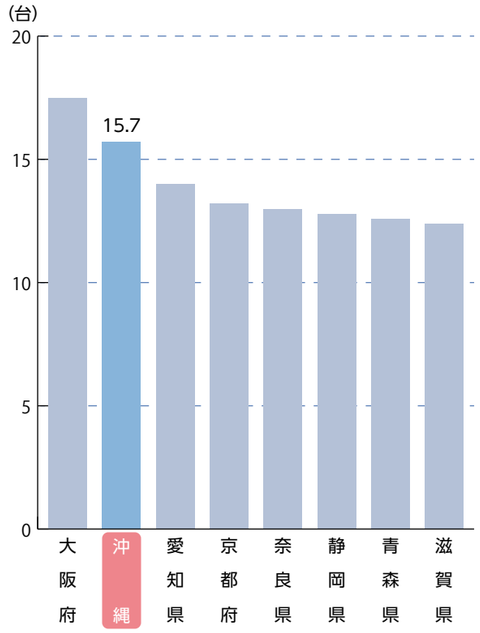
沖縄で親しまれている室内スポーツの一つ「ビリヤード」。最近ではダーツなどを加えたアミューズメント施設、飲食を伴うバー営業などが主流になり、ビリヤード場として専属で営業している店は少ないようだ。

総務省「経済センサス」によれば、沖縄県内に所在するビリヤード場数は18軒。人口10万人あたりに換算すると1.3軒で、これは全国1位の水準となる。

ビリヤードは、青少年から90歳までのスポーツといわれ、年齢や性別を問わず手軽に楽しめる競技の一つだ。プロの世界でも車椅子を使用するプレイヤーもおり、大柄な人間が小柄な人間より有利であるとは言い切れない。

体格差よりも、正確なショットを打つプレッシャーに負けない精神力の方が重要だ。週末は、マイキュー片手に親子で楽しむのも良いかもしれない。（海邦総研・新里治史）

貸切バス台数
（2012年・バス会社1社当たり）



15.7台

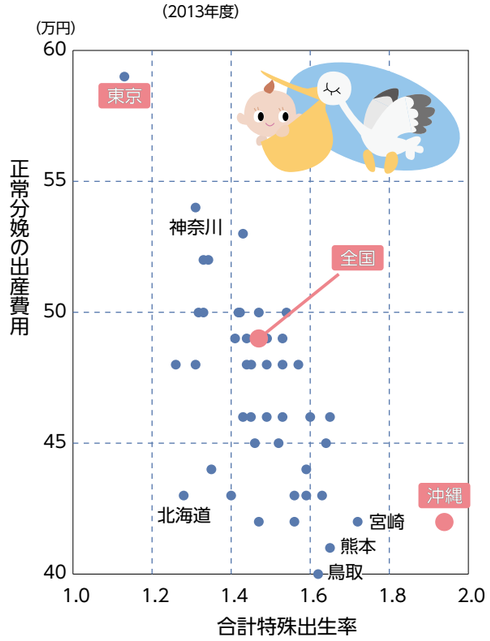
ここ数年、沖縄観光は好調な状態が続いている。昨年は入域観光客数が過去最高を記録し、今年も順調に推移している。特に海外からクルーズ船がより多く寄港するようになってから、さらに多くの団体客が訪れるようになった。貸切バスは引く手あまたの状態だ。

国土交通省「運輸要覧」によると、2012年の沖縄県内の貸切バス保有台数は802台。これを事業者1社あたりに換算すると15.7台となっている。これは全国第2位の水準で、沖縄観光の好調さを裏付けるデータの一つといえる。

それでも、毎年秋の修学旅行シーズンとクルーズ船の寄港が重なる時期には、貸切バスが不足する事態がこのところ続いている。

沖縄を訪れる観光客は、今後さらに増加すると予想される。新たな観光需要の創出と平準化対策を講じ、気持ちよくお客様をお迎えしたいものだ。（海邦総研・中山禎）

正常分娩の出産費用と合計特殊出生率
（2013年度）



41万6,320円

子どもが欲しい。でも、出産や教育にお金がかかるため、心配されている方も多いのではないか？

一人の子どもが誕生し、大学を卒業するまでにかかる費用が約数千万円といわれる現在。そもそも、子どもを出産するためにかかる費用は、いくらだろうか。

国民健康保険中央会「正常分娩分の平均的な出産費用」によると妊婦合計負担額の全国平均値は、48万950円。うち沖縄県は、41万6,320円と全国で3番目に安い水準となっている。一人の女性が一生に産む子どもの平均数といわれる合計特殊出生率が1.94の沖縄。これに対し、合計特殊出生率が一番低く、出産費用が全国一高い東京都と比べると出産費用で約18万円の差がある。

未来を担う子どもたち。少子高齢化が進むなか、今後さらに“地域の宝”として、産みやすく育てやすい環境と地域の協力が求められてくるのではないだろうか。（海邦総研・安田ひろみ）